

一級 一枚め

文部科学省後援 書写技能審査

平成二十九年年度第三回毛筆書写技能検定 試験問題

平成三十年一月二十八日実施

〔実技問題〕

〔実技問題の用紙（一枚め）も提出すること。〕

第一問 つぎの漢字五字を、別紙（半紙一枚）に縦書きで楷書・行書・草書の三体で三行に書きなさい。

江山満花柳

第二問 つぎのわく内の文を、別紙（半紙）を縦長にして書きなさい。（漢字は行書で書くこと。仮名は連綿で書いてもよい。漢字・仮名は課題のとおりに書くこと。）

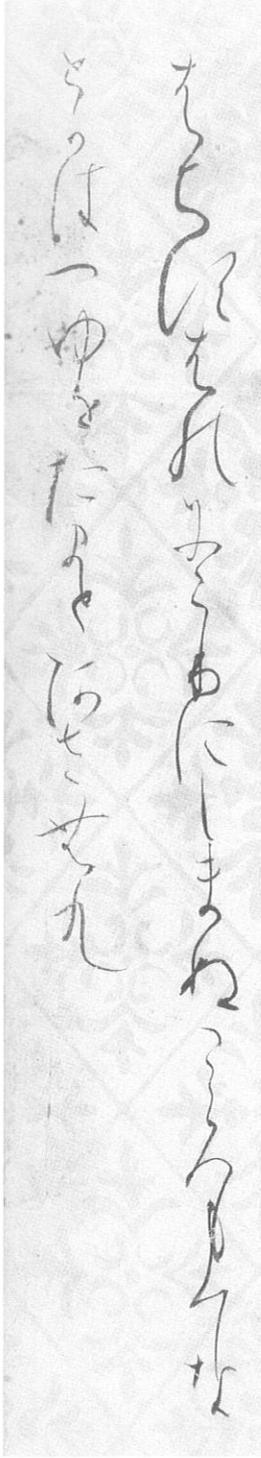
日本には美しく移ろう四季がある 桜を待ち 蝉の声を聞き
実りを喜び 雪の下に芽吹きを思う 人は季節に寄り添う

第三問 つぎの文字は争座位文稿の一部分です。これを別紙（半紙）を縦長にして臨書しなさい。



（僕射挺不）

第四問 つぎの和歌は元永本古今集の一部分です。これを別紙（半紙）を縦長にして、二つに折り、右半分に二行に臨書しなさい。（うつし書きをしないこと。）



はちすばのにごりにしまぬころもてな どうかはつゆをたまとあざむく

第五問 つぎの★印の……で囲んだわく内の a・b・c・dのうち、いずれか一つを選んで、縦書きで別紙（紙の大きさは図版を参照）に自分の得意とする形（書体・書きぶり・布置など）で書きなさい。（作品には落款を「松風書」として入れ、押印の位置は赤の油性または耐水性顔料のマーカーで□の形を書いて示すこと。c、dの場合は「松風かく」でもよい。）

a

春江潮水連海平
海上明月共潮生

b

桃花含雨開

c

散りにけりあはれうらみの誰なれば
花のあととふ春の山風

d

私は不思議でたまらない
黒い雲からふる雨が
銀にひかっていることが

★ aの読み 春江の潮水海に連なりて平らかなり 海上の明月潮と共に生ず

bの読み 桃花雨を含みて開く

（新古今和歌集）

（金子みすゞ）

第六問 つぎの賞状文を、別紙（賞状用紙・横長にして）に体裁よく書きなさい。（漢字は楷書で書くこと。印の大きさと位置を赤の油性または耐水性顔料のマーカーで示しなさい。）鉛筆で下書きをしてはいけない。定規やものさしで書いた線は消して出すこと。

賞状

特選 吉谷久江

あなたは校内書き初め展において頭書の成績を収めたのでこれを賞します

平成三十年一月二十八日
中央高等学校長 戸田 忠□

紙の大きさ

半切

半切の二分の一

紙は縦長でdの詩歌は横長にしてよい。

受験番号などを書く形式例

（個人） 受験番号 → 0101M01001

（団体） 試験会場名 → 西川高校
団体名 → 朝日KK
受験番号 → 12

（字もスペースも、この大きさで）

例示の形で

まず答案に受験番号などを書きなさい。

